

地区研修協議会について

ロータリーは、単年度が原則です。毎年 7 月には、国際ロータリーも、地区も、そしてクラブも、すべての役員が交替します。ガバナーエレクトが、国際協議会の研修を終え帰国すると、今度はクラブの次年度役員の研修が始まります。これらの研修会は、「PETS」「地区研修協議会」と一般に呼ばれています。今回は「地区研修協議会」の目的について紹介いたします。

地区研修協議会 (District Assembly)

毎年 1 回、地区内すべてのクラブの次期会長、幹事、理事、主要委員会の委員長など、重要な次期クラブ指導者たちが集まる知識・情報交換の場です。通常は、各クラブから 10 人前後の代表者が、この訓練コースに招請されます。

地区研修協議会は、なるべく 3 月、4 月、5 月中に行うこととなっています。協議会プログラム全般の責任は、ガバナーエレクトが負うとされていますが、計画と実施については、地区研修リーダーが責任を負うとされています。一方、各地区委員会委員長は、担当する研修セッションでの立ち上がりを指導する責任をもっています。

研修協議会の主目的は、3 点にまとめられます。①会員基盤を維持・増強、②地元や外国の地域社会で、その地域の実情に即したプロジェクトを実行し成功できるように、③プログラムへの参加と寄付金を通じ、ロータリー財団を支援すること、この 3 点について、ロータリークラブの指導者たちに、必要とされる能力を育成し、知識をもち、やる気を起こすように図ることです。

会の形式は、教育方法と分科会をフル活用し、次期クラブ役員が、ロータリーの奉仕のプログラムを推進する任務を把握できるようになっています。クラブ役員は、効果的なクラブ運営について学び、次年度の奉仕目標の達成について意見交換します。クラブ会長エレクトのために行われる研修セッションには、パストガバナー、ガバナー補佐などを適宜招くべきとされています。

大切なことは、PETS も地区研修協議会も、次年度クラブ会長になる人の参加が、義務づけられていることです。もし出席しなければ、その人はクラブ会長に就任することができません。このシステムは、ちょうどガバナーエレクトが国際協議会に出席しないと、次年度ガバナーにはなれない、というのと同じであることにセミナーの重要性が表れています。

ロータリーでは、会長以下各担当者が、RI、地区、クラブにおいて、基本的に毎年替わります。人は毎年替わっても、ロータリーの基本的な考え方は変わるものではありません。また、活動の中には単年度ではなく、何年もかけて完成するものもあります。しかし、いずれの活動も人から人への手渡しで、バトンタッチされていくものです。

新しい年度にクラブを指導する人々が、ロータリーの基本、ならびに新年度の RI 会長やガバナーの方針をよく理解し、それを各クラブに持ち帰って、クラブの会員に伝え、共有する。さらに、各クラブの事情も考えながら活動に結びつけていく。出席者は大切なその橋渡し役です。

地区研修協議会は、単なる研修会ではありません。ロータリーの奉仕のプロジェクトについて、新しい考えを入れながら、永遠に続く継続性をもたせるために行われる、大切な会合なのです。

(出典：『ロータリーの友』2005 年 3 月号) (文責 丹治正博)